

経営の合理化による生産性の向上をめざして （（農）あかつきファーム今在家）

<法人の概要>

所在地：島根県出雲市

設 立：平成 1 5 年 3 月

資本金：9 1 4 万円 売上高：1 1, 3 2 8 万円（平成 2 5 年）

構成員（議決権）：農業従事者 83 名（100%）

役 員：9 名（うち農作業従事 5 名）

従業員数：常時雇用者 6 名

経営面積：75. 7ha（借入 75. 7ha） 基幹農作業受託面積：0ha

作付作物：米 46. 24ha、大豆 9. 24ha、麦 18. 3ha、ハト麦 9ha、ぶどう 0. 9ha、いちご 0. 27ha、キャベツ 1. 6ha、玉ねぎ 1. 3ha 他



平均 1. 7ha の大区画ほ場（最大 2. 7ha）



大型機械（125ps）による代掻き

<営農を開始するまでの状況>

大区画ほ場整備事業を契機に、一集落一農場の今在家地区営農組合を平成 3 年 1 2 月に設立し、土地利用型作物（稲・麦・大豆）を中心に玉ねぎ、キャベツ、チューリップ等の特産農作物の栽培に取り組んでいたが、農業を取り巻く状況が大きく変化する中で、法人化により経営体質の強化、担い手の確保を目指し、平成 1 4 年 4 月に 1 5 名による経営方針策定委員会を設置し、島根県出雲農林振興センター普及部（当時）、斐川町（当時）、JA 斐川町の支援を受けながら 4 6 回の事務局、策定委員会、2 1 回の自治会別、男女年代別説明会、4 回の先進事例視察を経て平成 1 4 年 1 2 月の今在家地区営農組合臨時総会において法人化を決定し、翌 1 5 年 3 月に（農）あかつきファーム今在家を設立。

<特徴的な取組>

平均170aの大区画ほ場を活用した土地利用型作物（稲・麦・大豆・ハト麦）の低コスト栽培と、特産作物栽培による収益向上をめざしている。

特に、地域に眠る労働力の発掘のため「人財」バンクを設立し、多数の組合員及び家族が特産作物の管理作業に携わっており、地域の雇用の場を提供している。

※人は材料、物ではなく「宝」とあるという考えから、「人材バンク」ではなく、「人財バンク」とした。

平成18年度から、新たな取り組みとして「ぶどう0.9ha・17品種」「いちご0.27ha・2品種（現在は3品種）」による観光農園に取り組み多数の来園者から好評を得ている。

また、西日本最大のチューリップ生産地として毎年4月にチューリップ祭を開催し、期間中多くの来場者が訪れている。

<今後の農業経営の展開方向>

全部門の点検と効率化を図りながら、収益性の向上を目指すとともに、新たな栽培品目及び販売方法の検討等により経営体質強化を目指したい。

<今後法人化を進めようとしている方へのアドバイス>

なんのために法人化するのか、目的を明確にしたうえで徹底した話し合いを行い、法人化後は徹底した情報公開を行うことにより、組合員（株主）と役員の一体感を常に意識した運営が必要であると考えます。

経営形態、経営方針、作業体系とその関わり方（出役方法）、地域との関わり方等です。



毎年4月に行うチューリップ祭



ぶどう狩りを楽しむ子ども